令和元年度　中央区立中央幼稚園　自己評価報告書

園　名：　中央区立中央幼稚園　　所在地：中央区湊１－４－１
園長名：　野田　和敬
園児数：　７７名　　学級数：４学級　　教員：７名（園長１名）

★本園では、Ⅰ主体的に学び行動する基礎の育成、Ⅱ豊かな人間性の基礎の育成、Ⅲ健康な体力・安全な生活の素地の育成の３点を重点目標に教育活動を行ってきました。これについて、教員の自己評価アンケートを行うとともに、令和元年１２月に保護者の皆様に園評価アンケートを実施しました。回収率は１００％でした。

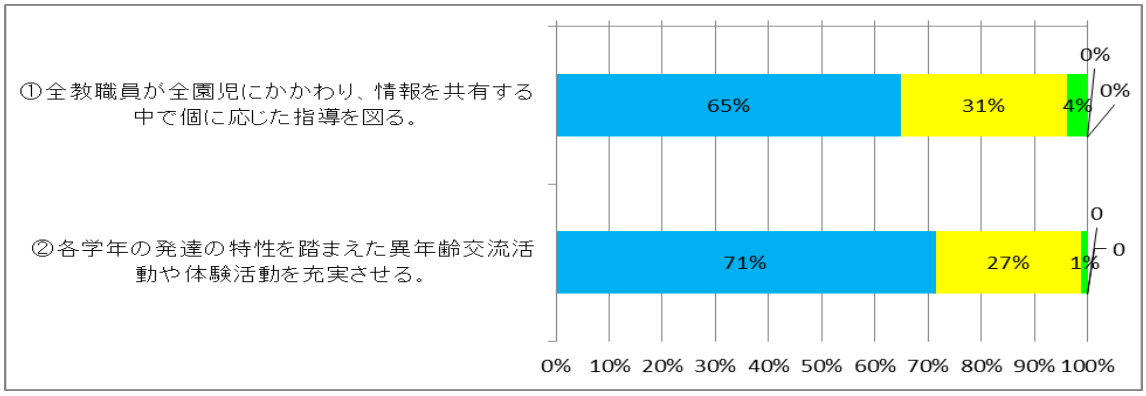
＜重点目標の達成状況及び取組状況＞

保護者の重点目標３項目の「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた平均は９７％で、昨年度は９６％でしたので、昨年度と同様に９割強という評価をいただきました。

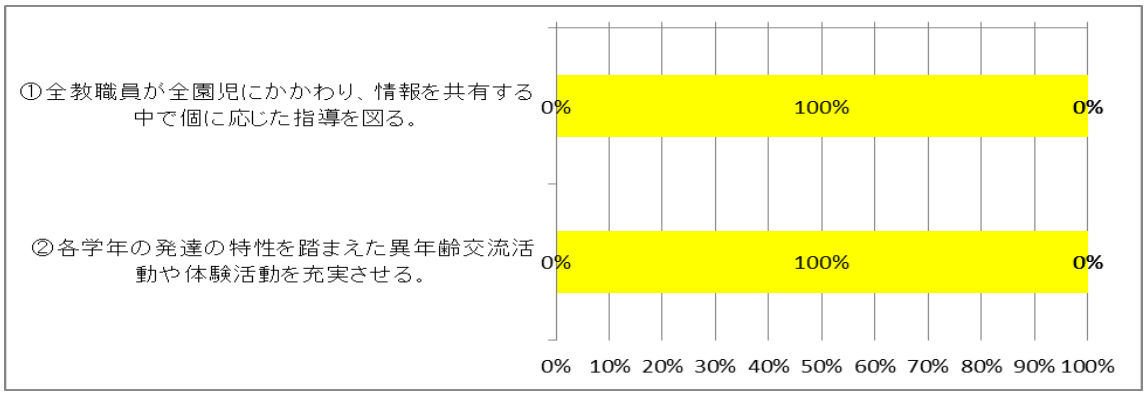
保よくあてはまる　教十分達成している
保あてはまる　教達成している
保あまりあてはまらない　教改善を要する
保あてはまらない　教緊急に改善を要する
保よくわからない

重点目標１　主体的に学び行動する基礎の育成

保護者



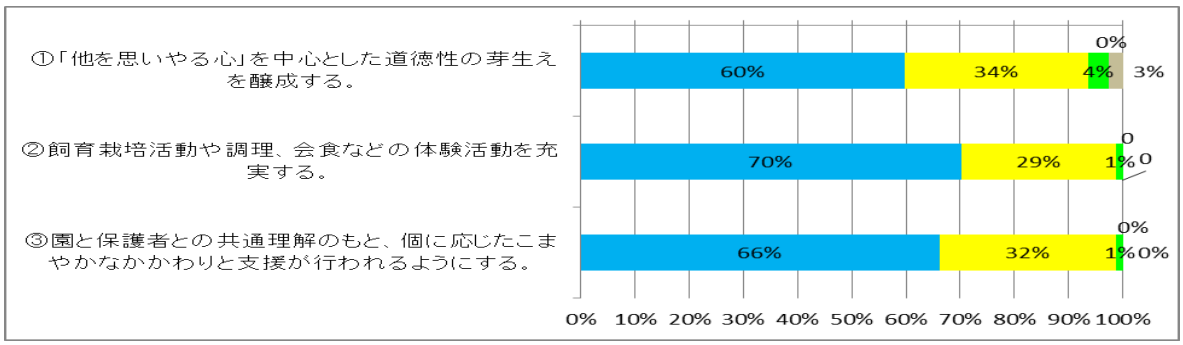
教員



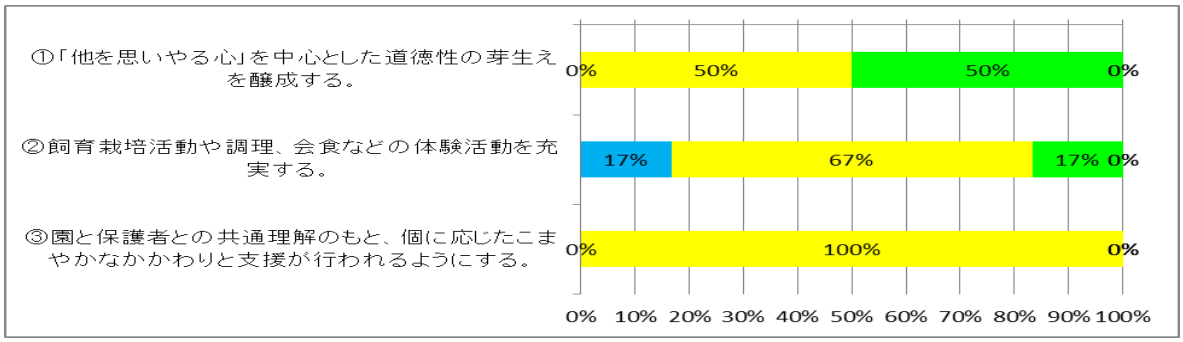
○重点目標１の保護者の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は、９７％とほぼ昨年度と同様の評価でした。しかし、重点目標Ⅰの①は「あまりあてはまらない」の回答が３％（２件）増えています。教員については、①の項目では全教員が「あてはまるの」と評価しており、昨年の評価を受けて指導を見直し実践してきたことによる評価であると思われますが、保護者の結果から個々の保護者への対応がより必要であったと考えます。引き続き、全教員で幼児の実態や指導について情報を共有し、個に応じた指導に取り組んでいきます。②の項では、昨年度よりわずかですが「よくあてはまる」「あてはまる」の合計は増えています。異年齢の交流、体験活動については、さらに発達にふさわしい教材や環境の工夫し充実できるようにしていきます。

重点目標２　　豊かな人間性の基礎の育成

保護者



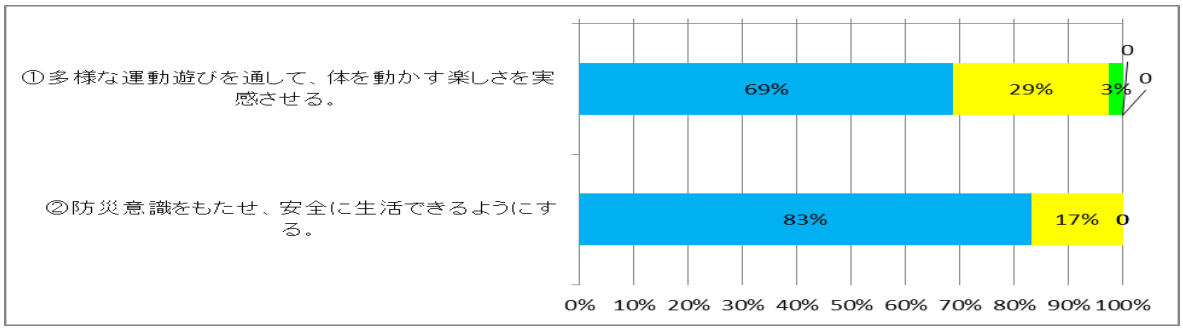
教員



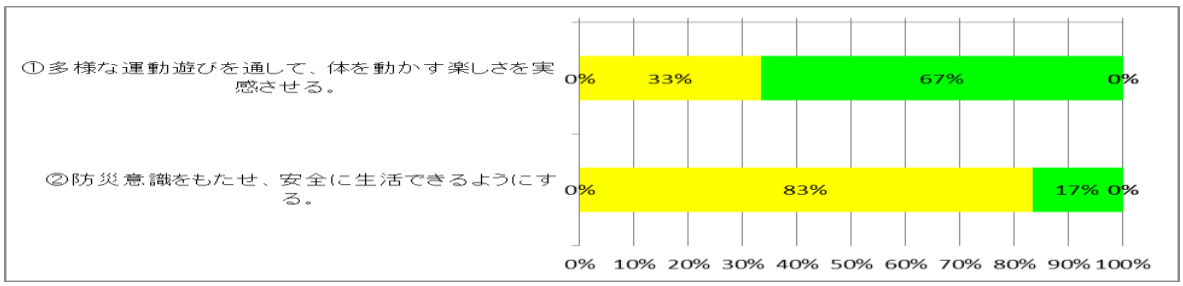
○重点目標２では、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は９７％と、昨年度より４％高くなりました。しかし、①の項目に「わからない」という回答が３％（２件）ありました。①の『道徳性の芽生え』については教員の半数が、指導の成果が見られなかったと評価しており、指導の難しさを感じています。道徳性の芽生えについては、人との関わりの中で重要な課題なので、教師自身も意識をもち、個に応じた具体的な指導を探りながら道徳性を培っていきます。

重点目標３　健康な体力・安全な生活の素地の育成

保護者

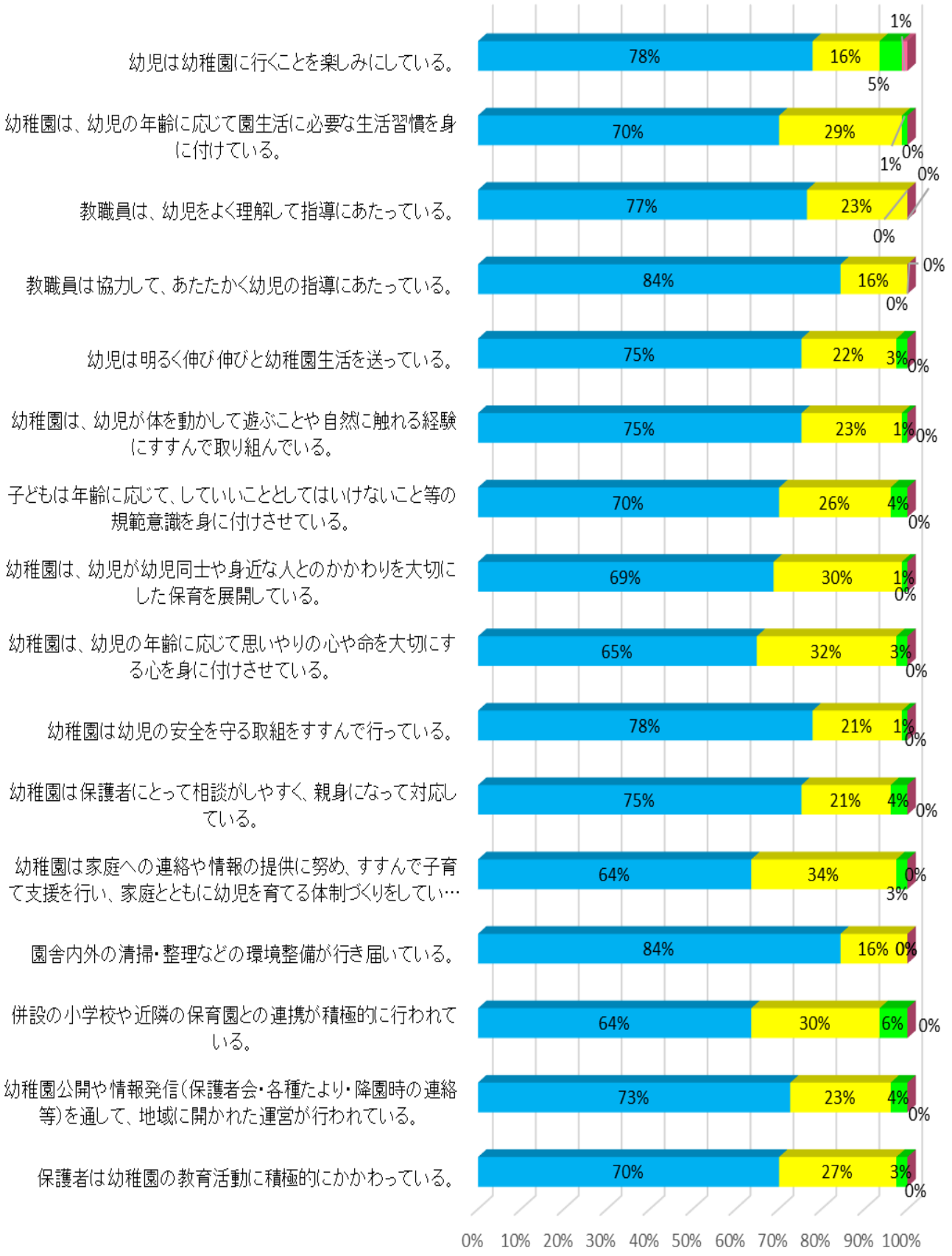


教員



○重点目標３の「よくあてまはる」「あてまはる」の合計の平均は９９％と昨年度より２％高くなりました。一方で、①の項目に「あまりあてはまらない」の回答が３％（２件）あり、教員も半数以上が「改善が必要」と評価しています。発達や実態に応じた活動や環境を計画的に取り入れ、体を動かす楽しさが充実できるようにしていきます。また、保護者にも成果が伝わるような発信を積み重ねていきます。

＜重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況＞



＜重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況＞
★全方位的な評価として、教員１２項目、保護者１６項目での評価を行いました。

＜教員による評価＞

教員による全方位的な評価は、幼稚園教育の根幹である「指導計画・内容」の『基本的生活習慣』『命やものを大切にする心の育成』『生きる力の育成』の項目で「改善を要する」という評価が昨年より増えました。生活習慣が幼児の生活の基本になることをおさえながら、道徳性、規範意識にかかわる指導については、より個々の実態に応じた指導を積み重ね、組織的に取り組んでいきます。

『情報提供』『保護者との連携』の項目でも「改善を要する」という評価がありました。一人一人の幼児の姿や育ちについて保護者への発信の仕方に課題があったと感じています。園での様子や成長を伝える方法を見直し、保護者に寄り添った支援をしていくように努めます。

＜保護者による評価＞

全体の評価は、１６項目での評価を行いました。「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の平均は、昨年度と同様９７％でした。

「よくあてはまる」の回答が増えているのは、『幼児を理解して指導にあたっている』『相談がしやすく親身になって対応している』『地域に開かれた運営が行われている』『教育活動に積極的にかかわっている』項目です。

しかし、ほとんどの項目で「あまりあてはまらない」という回答がありました。その中で『幼稚園に行くことを楽しみに』『規範意識を身につけさせている』『相談がしやすく親身になって対応している』『保幼小の連携が積極的に行われている』の４つの項目では、「あまりあてはまらない」という回答が昨年より増えています。この結果を受けて、教員から積極的に話しかけて保護者が相談しやすい関係をつくり、保護者と幼児の育ちを共通理解しながら、幼児が『幼稚園が楽しい』と思えるように一人一人に応じた対応に努めていきます。

小学校や保育園との連携については、５歳児が中心であることから分かりにくいのだと思われます。さらなる保護者への家庭への情報発信に工夫していきます。

＜今後の改善方策＞

○幼児一人一人が必要な経験を積み重ね、保護者が我が子の成長を実感していただけるように、全教員で幼児の実態や育ちを丁寧に読み取り、具体的な指導についても共有し、個々に応じた指導に努めていきます。

○個々の興味・関心を広げ、発達に応じた経験ができるような教材研究や保育室の環境構成、学級のみんなでする楽しさを味わえるような活動を工夫するなど、幼児が豊かな経験ができるように取り組んでいきます。

○降園時や個人面談を活用して教員から積極的に話しかけ、保護者が気軽に相談しやすい雰囲気づくりに努めながら、幼稚園と家庭とが連携して一人一人の成長を促す役割が果たせるようにしていきます。また、幼稚園公開、保護者による教育活動への参画を通して活動のねらいや実態を伝えたり、学級だよりの発行、ホームページを充実して情報発信に努めたりして、幼稚園の教育活動への理解を図ります。